

業務そくほう

日本貨物鉄道産業労働組合

2025.5.14日

No. 737

2025年 夏季手当要求書提出

基準内賃金×2.3ヶ月を要求する

本部は、5月14日、要求書を提出しました。以下、報告します。

2024年度は、2024問題等でJR貨物グループに大きな期待が高まりましたが、期待とは裏腹に厳しい舵取りを余儀なくされ、2024年度決算では、連結経常利益14億を確保し昨年度より大幅に回復しましたが、当初の計画値と比べれば厳しい結果となりました。2025年度の決算見通しでは、連結経常利益74億としており、この計画を達成するためにも、社内全体の士気を上げ、お客様に対し魅力ある商品を提供していかなければなりません。また、頻発する輸送障害や自然災害が起きる中においても、組合員は国からの指定公共機関の責務として、昼夜を問わず日々、安全安定輸送に努めていることを会社は強く認識しなければなりません。

期末手当・春闘においては、毎年のように低額回答が続き、他企業と比べれば賃金改善が遅れていることは明らかであり、人事制度一部修正を実施し、賃金改善を図ろうとしていますが、納得の出来る中身になっておらず、離職がさらに進むのではないかと危惧するところです。将来を担う有望な社員の離職は、JR貨物にとって大きな損失となり、会社は「JR貨物グループ中期経営計画2026」を策定し、次の150年に向けて走り出していますが、賃金改善が進まなければ離職は止まらず、また、優秀な社員を確保出来ず、150年どころか15年先に労働者不足という危機的な状況に陥るかもしれません。

我が組織は、JR貨物の経営を常に考え、JR貨物における政策課題解決に向けJR連合と共に取り組んでおり、これまでの経過を踏まえ、会社の状況を考慮しても私達の要求に応えられる体力は十分にあると認識します。

以上を踏まえ、魅力ある会社を構築し、JR貨物グループブランドイメージをさらに高めていくためにも、賃金改善は必須である私達の主張を理解して頂き、満額回答を強く求めます。

以上